

金蘭短大

の 篠原 冬

和洋女大文系政

酒井ノブ子

目的 筆者らは昭和50年以来、女子学生、中高年主婦の勤労観について実態調査をし、その結果を報告して来た。今回は、中高年主婦とその夫について調査し、中高年男女の勤労観の比較に視点をあて、おのおのの特徴を明らかにしようとするものである。

方法 調査時期は54年1月～3月で、対象は寝屋川市の某幼稚園児の父母258組、金蘭短大の学生の父母200組で、昨年の総会で発表したものと同じ内容の質問紙を教師、学生を通して配布し、回収した。回収率は85.5%、有効率は98.3%であった。

結果 男女の違いを年齢別（～34才、35才～44才、45才～）、学歴別（小中学校卒、高校卒、大学卒その他）、職業別（男性のサラリーマンとその他の職業者、女性の有職者の三者）に比較してみた。

年齢別では、各層を通じて違っていたのは、生きがいの対象、勤労意欲、仕事を選択する時の基準などで、男性は仕事や勉強に生きがいを求めるのに対し、女性は家庭、子や孫の成長などにそれを求める人が多く、勤労意欲は男性の方が強く、仕事を選ぶ基準は男女それぞれの年齢層でいろいろの違いを示していた。

学歴別では、生きがいの対象と勤労意欲に男女差がみられ、前同様の違いがみられた。

職業別では、くらし向きの実感、生きがいの対象、生活の規範、勤労意欲、仕事の選択基準、勤勉についての考え方、余暇の活用など、多くの項目に有意差が認められた。

以上を総合して男女差をみると、くらし向きの実感、仕事の選択と勤勉についての考え方の一部、余暇の過ごし方の評価を除いては、すべての項目に有意差が認められた。